

**平成20年度
大阪医科大学医師会総会報告**

中央検査部 村尾 仁

日 時 : 平成20年5月19日(月) 18時30分～
場 所 : 第2会議室(総合研究棟12階)
議 長 : 第1会議室(本館・図書館4階)

1・平成19年度事業報告(河野会長)

1) 医大医師会の充実

大阪府医師会において勤務医の発言を有効にするために、会員数に比例して割り当てられる代議員数を獲得することが重要である。

新規入会46名、退会50名で、会員413名(うち現臨床研修医24名)で、昨年度とほとんど増減がない。

「医師会費自動引落し制度」を導入し、199名(48.2%)が利用を開始した。

2) 医大医師会の学術活動

「大阪医科大学医師会報」(年2回発行)し、特集として第28号(9月発行)では「本音で話そう! 臨床研修必修後の卒後教育」を、第29号(3月発行)では「医療崩壊」を掲載した。

北摂四医師会医学会の研究会を9分科会で10回開催し、その記録集として「北摂四医師会医学会記録集」(年1回発行)を発行した。産業医講習会も7回(うち4回は前述研究会)開催した。

3) 在阪5大学医師会・地域医師会との連携強化

平成18年に発足した全国大学医師会連絡協議会の総会が3月15日(土)に東京医科歯科大学医学部で開催され、米田副会長が参加した。今後、小委員会を立ち上げて、活動を推進していくこととなった。

在阪5大学医師会懇談会は、平成19年度には開催されなかった。

「勤務環境ならびに心の健康に関するアンケート調査2007」のアンケートを全会員(409名)に実施し、その結果に基づき、田中理事が「大学勤務医のメンタルストレスについて」、臼田会計が「勤務医の職場ストレス 荷重労働を中心として」の各論文を発表した。

4) 60周年記念事業に向けて

平成20年1月にホームページをリニューアルした。講演会等の案内も強化し会員の学術活動の支援を行っている。

5) 滞納者に対する対処について

過去3年間の滞納額累計が400万円に及び、回収不能なケースが多く問題である。医師会費自動引落し制度を奨励していくとともに、退会勧告についての会則を強化していくこととなった。

2. 平成19年度会計報告(臼田会計)

全会一致で承認された。

3. 平成19年度監査報告(臼田会計)

全会一致で承認された。

4. 平成20年度事業計画(河野会長)

1) 医大医師会の充実

今後も引き続き医師会充実のために会員数増加に努める。また、各会員の会員区分の見直しも行き、適正な会費徴収に勤める。

2) 医大医師会の学術活動

前年度に引き続き、「大阪医科大学医師会報」(年2回発行)、「北摂四医師会医学会記録集」(年1回発行)を行い、各分科会の充実を図り、新分科会も開設する。

3) 在阪5大学医師会・地域医師会との連携強化

在阪5大学医師会との懇談会への参加は元より、病診連携に関するアンケートを実施するなど、地域医師会とも連携を深めていく。

4) 60周年記念事業の推進

座談会「地域連携クリニカルパスについて」を実施し、地域との連携を図ると同時に、60年史の発行や図書館に寄贈した時計の修理等も予定している。

5) 関連病院等に勤務する会員に対するメンタルケアについて

「勤務環境ならびに心の健康に関するアンケート調査2007」のアンケート分析を行った田中理事から、関連病院等に勤務する会員に対するメンタルケアの必要性について提案があった。メンタルケアに関わるスタッフを新規採用することが決まった。

6) 公益法人化について

公益法人制度改革が行われ、現在社団法人である府医師会や市医師会は公益社団法人への移行準備を進めている。任意団体である本医師会を今後どのような形で運営していくか検討が必要である。

5. 平成20年度予算案(臼田会計)

全会一致で承認された。

6. その他

来年度からは、評議員会と総会を同時に開催することとなった。